

第74期

KISSEI REPORT

中間報告書 2018.4.1-2018.9.30

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当の基準日	期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
定時株主総会基準日	毎年3月31日
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同 連 絡 先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料)
同 郵 送 先	〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公 告 方 法	電子公告 電子公告掲載 URL https://www.kissei.co.jp/ ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行います。
上 場 取 引 所	東京証券取引所 市場第1部

【お知らせ】

ご注意

- 株主様の住所変更、配当金の振込のご指定、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店で支払いいたします。

**UD
FONT** 見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

明日の健康を見つめる
KISSEI **キッセイ薬品工業株式会社**



ナナカマド色づく白馬大池と小蓮華山

KISSEI **キッセイ薬品工業株式会社**

経営ビジョン

世界の人びとの健康に
貢献できる
独創的な医薬品を
開発し提供する
創薬研究開発型企業を
目指す



代表取締役会長

神津陸雄

株主の皆様には日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに当社第74期第2四半期（2018年4月1日から2018年9月30日まで）の事業の概要をご報告させていただきます。

当社は、計画年数を5年とする中期経営計画「Co-Creation」を昨年4月よりスタートさせ、4つの基本方針のもとに、将来の安定成長のための事業基盤の強化を図っております。基本方針の一つである「製品ポートフォリオの拡充」につきましては、開発中のプロジェクトを推進することで、この半年間で、剤形追加を含む2テーマが「承認取得」、2テーマが「承認申請中」の段階にステージアップいたしました。

引き続き、経営環境の変化を乗り越え、創薬研究開発型企業として持続的成長を図るための取り組みに邁進していく所存です。

今後とも、株主の皆様の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



当第2四半期連結累計期間における医薬品業界は、後発品使用促進策等の医療費抑制策の進展に加え、本年4月に実施されました薬価改定におきまして、新薬創出・適応外薬解消等促進加算の加算要件の見直しや後発品への置き換え率に基づく長期収載医薬品の薬価引下げが実施されるなど、引き続き厳しい経営環境のもとに推移しております。また、情報サービス業界、物品販売業界、建設業界におきましては、企業におけるIT投資及び設備投資意欲に改善傾向が見られるものの、低調な個人消費を主要因に景気の先行き不透明感が広がるなど、依然として厳しい競争環境下にありました。

医薬品事業の売上高は、299億8千5百万円（前年同期比7.2%減）となりました。主力製品における積極的な医薬情報活動を推進いたしましたことなどにより、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬「ユリーフ錠」及び「ユリーフOD錠」、高リン血症治療薬「ピートルチュアブル錠」、昨年12月に新発売いたしました潰瘍性大腸炎治療薬「レクタブル2mg注腸フォーム14回」などの売上が増加いたしました一方、本年4月に実施されました薬価改定の影響や技術料売上が減少いたしましたことなどにより減収となりました。また、前立腺肥大症に伴う排尿障害改善薬シロドシン（一般名、日本製品名ユリーフ）の欧州・中東・アフリカなどにおける技術導出先でありますレコルダッチ社（イタリア）では、当連結累計期間におきましても引き続き許諾地域内において製品育成を進めております。

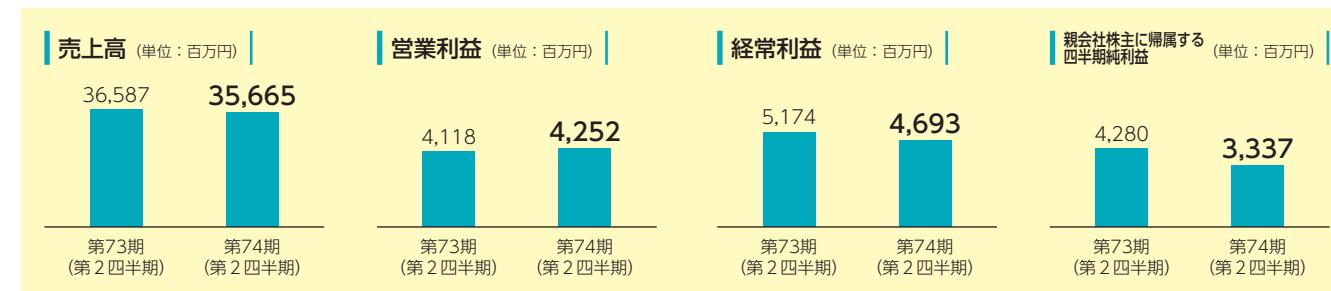
その他の事業の売上高は、56億7千9百万円（前年同期比32.4%増）となりました。情報サービス業で減収となりましたものの、物品販売業、建設請負業におきまして増収となりました。

利益面では、減収及び売上原価率の上昇がありましたものの、研究開発費を主に販売費及び一般管理費が減少いたしましたことにより、営業利益は増益となりました。一方、経常利益は前年同期に計上いたしました有価証券評価益の反動により、親会社株主に帰属する四半期純利益は投資有価証券売却益の減少などにより、それぞれ減益となりました。

研究開発の状況では、昨年9月に当社との共同開発先であります杏林製薬株式会社より承認申請が行われました過活動膀胱治療薬KRP-114V（開発番号、一般名：ビベグロン）、同じく昨年9月に当社より承認申請を行いましたピートルチュアブル錠の剤形追加（顆粒剤）につきまして、本年9月にそれぞれ製造販売承認を取得いたしました。これら2剤につきましては薬価基準収載後に、KRP-114Vは製品名「ベオーバ錠」として、ピートルチュアブル錠の剤形追加は製品名「ピートル顆粒分包」として販売を開始するための準備を進めております。また、本年9月には、持続型赤血球造血刺激因子製剤ダルベポエチンアルファ（一般名）のバイオ後続品JR-131（開発番号）について当社との共同開発先でありますJCRファーマ株式会社より承認申請が行われました。なお、昨年6月に承認申請を一旦取り下げました糖尿病治療薬「グルベス配合錠」の剤形追加（口腔内崩壊錠）につきましては、追加試験が終了したことを受け、改めて承認申請を行いました。また、脊髄小脳変性症治療薬KPS-0373（開発番号、一般名：ロパチレリン）につきましては、第Ⅲ相臨床試験において、主要評価項目である運動失調を評価するSARA合計スコアの変化量について、プラセボと比べて統計学的に有意な改善が認められなかったことから、引き続き今回の試験により得られた結果について重症度による部分集団解析などの詳細な検討を行っております。

本年10月には、ライジェルファーマシューティカルズ社（アメリカ）との間で低分子チロシンキナーゼ阻害剤ホスタマチニブ（一般名）の日本・中国・韓国・台湾における独占的な開発権及び販売権取得に関する契約を締結いたしました。

なお、本年8月には、ユリーフ錠及びユリーフOD錠のオーストラリア・ジェネリック（以下、ユリーフAG）につきまして、当社の許諾に基づき、第一三共エスファ株式会社が製造販売承認を取得しております。ユリーフAGは、当社が製造し、第一三共エスファ株式会社が販売を担当します。



連結業績予想

医薬品業界におきましては、後発品使用促進策等の医療費抑制策の影響を受け、引き続き厳しい経営環境下にあります。また、その他の事業におきましても、景気回復への足取りが鈍く依然として厳しい業界環境が継続するものと予想されます。現時点での2019年3月期の連結業績見通しにつきましては、以下のとおりです。

連結業績見通し

(単位：百万円)

	2018年3月期実績	2019年3月期見通し	対前期増減額	増減率 (%)
① 売上高	74,009	72,700	△1,309	△1.8
② 営業利益	9,887	6,400	△3,487	△35.3
② 経常利益	11,414	7,400	△4,014	△35.2
② 親会社株主に帰属する当期純利益	9,045	5,500	△3,545	△39.2

① 売上高について

当初見通しより10億円増額の727億円（前年度比1.8%減収）に修正いたします。

第2四半期連結累計期間の業績ならびに現況を加味した見直しを行いました結果、医薬品事業におきまして10億円の増額、その他の事業におきましては据え置きといたしました。医薬品事業では、主として国内販売提携先に対する売上を見直したことによります。

② 利益について

第2四半期連結累計期間におきましては、当初計画と比べ、売上高はほぼ同等でありました一方、売上原価率が低下し、また販売費及び一般管理費が下回りましたことなどにより、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益は当初見通しを上回りました。年度後半では、売上原価率の当初計画からの低下を見込んでおります一方、ライジェルフーマシューティカルズ社より導入いたしました研究開発テーマの契約一時金の計上などにより、研究開発費の増加を見込んでおります。

通期の利益見通しにつきましては、営業利益は当初見通しより15億円減額の64億円（前年度比35.3%減益）、経常利益は当初見通しより15億円減額の74億円（前年度比35.2%減益）、親会社株主に帰属する当期純利益は当初見通しより11億円減額の55億円（前年度比39.2%減益）の見通しであります。なお、年度後半の営業外損益ならびに特別損益におきましては、特別なものは見込んでおりません。

研究開発の状況

経営ビジョンである「世界の人の健康に貢献できる独創的な医薬品を開発し提供する創薬研究開発型企業を目指す」の実現のため、研究開発における重点領域を定め、積極的に研究開発投資を行うことにより、新薬創出と開発の加速を図っております。また、安定的な海外収益基盤の構築に向けて、創製品の技術導出による国際展開を推進しております。

(2018年11月現在)

● 自 社

開発段階	製品名/開発番号 (一般名)	開発区分	予定適応症	主な作用等	備考
承認取得	ベオバ® (ビベグロン)	導入品/杏林製薬共同開発	過活動膀胱	β3アドレナリン受容体刺激作用	
	ピートル® (スクロオキシ水酸化鉄)	導入品/ビフォー・フレゼニウス・メディカル・ケア・リーナル・ファーマ (スイス)	透析中の慢性腎臓病患者における高リン血症の改善	リン吸着作用	剤形追加 (顆粒剤)
承認申請中	JR-131	導入品/JCRファーマ共同開発	腎性貧血	赤血球増加作用	ダルベオエチナルファバイオ後続品
	グルベス®	自社開発	2型糖尿病	速効・短時間型インスリン分泌促進作用+α-グルコシダーゼ阻害作用	ミチグリニド・ボグリボース配合剤 剤形追加 (OD錠)
第Ⅲ相	KPS-0373 (ロパチレリン)	導入品/塩野義製薬	脊髄小脳変性症	甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン (TRH) 作用	第Ⅲ相検証試験等のデータを解析中
	AJM300 (カロテグラストメチル)	導入品/EAファーマ共同開発	潰瘍性大腸炎	α4インテグリン阻害作用	
第Ⅱ相	CCX168 (アバコパン)	導入品/ビフォー・フレゼニウス・メディカル・ケア・リーナル・ファーマ (スイス)	抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎	補体C5a受容体阻害作用	
	KLH-2109	創製品	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト	
第Ⅰ相	MR13A9 (ジフェリケファリン)	導入品/丸石製薬共同開発	透析患者におけるそう痒症	κオピオイド受容体刺激作用	
	YS110	導入品/ワイズ・イー・シー、東京大学、日本医療研究開発機構 (AMED)	悪性中皮腫	抗CD26ヒトモノクローナル抗体	
第Ⅰ相	KDT-3594	創製品	パーキンソン病	ドパミン受容体刺激作用	

(2018年11月現在)

● 導 出

開発段階	開発番号/一般名	提携企業	権利地域	予定適応症	主な作用等
承認申請中	ミチグリニド (mitiglinide)	エーザイ (日本)	アセアン*1	2型糖尿病	速効・短時間型インスリン分泌促進作用
	シロドシン (sildenafil)		アセアン、インド、スリランカ*2	前立腺肥大症に伴う排尿障害	α1アドレナリン受容体拮抗作用
第Ⅲ相	KLH-2109 (linzagolix)	オブシーバ (スイス)	日本、一部のアジアを除く全世界	子宮筋腫	GnRHアンタゴニスト
第Ⅱ相	ベドラドリン (bedoradrine)	メディシノバ (アメリカ)	日本を除く全世界	喘息の急性発作	β2アドレナリン受容体刺激作用
	KLH-2109 (linzagolix)	オブシーバ (スイス)	日本、一部のアジアを除く全世界	子宮内膜症	GnRHアンタゴニスト

*1：発売：タイ、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、承認：ラオス、申請中：ベトナム

*2：発売：タイ、インド、インドネシア、フィリピン、カンボジア、ミャンマー、承認：マレーシア、申請中：アセアン2カ国

●四半期連結貸借対照表

				(単位：百万円)			
科目	期別 前第2四半期 (2017年9月30日現在)	当第2四半期 (2018年9月30日現在)	前期 (2018年3月31日現在)	科目	期別 前第2四半期 (2017年9月30日現在)	当第2四半期 (2018年9月30日現在)	前期 (2018年3月31日現在)
(資産の部)				(負債の部)			
流動資産	99,073	98,780	98,163	流動負債	16,960	15,160	17,448
固定資産	97,008	123,478	112,658	固定負債	12,886	21,182	17,280
有形固定資産	26,176	25,861	26,396	負債合計	29,847	36,342	34,728
無形固定資産	1,824	1,605	1,716	(純資産の部)			
投資その他の資産	69,006	96,011	84,545	株主資本	140,668	142,025	139,809
資産合計	196,081	222,258	210,821	その他の包括利益累計額	25,214	43,486	35,892
				非支配株主持分	351	404	390
				純資産合計	166,234	185,916	176,092
				負債純資産合計	196,081	222,258	210,821

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point

・資産の状況

総資産は2,222億5千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ114億3千7百万円増加いたしました。流動資産は受取手形及び売掛金、たな卸資産などが減少いたしました。現金及び預金などが増加いたしましたことなどにより、6億1千6百万円増加し987億8千万円となりました。固定資産は投資有価証券の増加などにより、108億2千万円増加し1,234億7千8百万円となりました。

Point

・負債及び純資産の状況

負債は363億4千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ16億1千4百万円増加いたしました。流動負債は、支払手形及び買掛金、未払法人税等などが減少いたしましたことなどにより、22億8千7百万円減少し151億6千万円となりました。固定負債は繰延税金負債の増加などにより39億1百万円増加し、211億8千2百万円となりました。

純資産は1,859億1千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ98億2千3百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金が増加いたしましたことなどによります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の83.3%から83.5%となりました。

●四半期連結損益計算書

				(単位：百万円)			
科目	期別 前第2四半期 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	当第2四半期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	前期 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)	科目	期別 前第2四半期 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	当第2四半期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	前期 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)
売上高	36,587	35,665	74,009	売上原価	12,327	13,507	25,889
売上総利益	24,259	22,157	48,120	売上総利益	24,259	22,157	48,120
販売費及び一般管理費	20,141	17,905	38,232	営業外収益	1,149	639	1,558
営業利益	4,118	4,252	9,887	営業外費用	92	198	32
営業外収益	1,149	639	1,558	経常利益	5,174	4,693	11,414
営業外費用	92	198	32	特別利益	309	1	320
経常利益	5,174	4,693	11,414	特別損失	14	51	37
特別利益	309	1	320	税金等調整前四半期 (当期) 純利益	5,470	4,643	11,697
特別損失	14	51	37	法人税、住民税及び事業税	1,746	379	3,223
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	5,470	4,643	11,697	法人税等調整額	△576	915	△624
法人税、住民税及び事業税	1,746	379	3,223	四半期(当期) 純利益	4,299	3,348	9,098
法人税等調整額	△576	915	△624	非支配株主に帰属する 四半期(当期) 純利益	19	11	52
四半期(当期) 純利益	4,299	3,348	9,098	親会社株主に帰属する 四半期(当期) 純利益	4,280	3,337	9,045
非支配株主に帰属する 四半期(当期) 純利益	19	11	52				
親会社株主に帰属する 四半期(当期) 純利益	4,280	3,337	9,045				

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

●四半期連結キャッシュ・フロー計算書

				(単位：百万円)			
科目	期別 前第2四半期 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	当第2四半期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	前期 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)	科目	期別 前第2四半期 (2017年4月1日から 2017年9月30日まで)	当第2四半期 (2018年4月1日から 2018年9月30日まで)	前期 (2017年4月1日から 2018年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,895	7,904	8,845	投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,248	△1,467	△2,959
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,248	△1,467	△2,959	財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,056	△1,160	△6,621
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,056	△1,160	△6,621	現金及び現金同等物に係る換算差額	0	2	△2
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	2	△2	現金及び現金同等物の増減額	△1,409	5,279	△737
現金及び現金同等物の増減額	△1,409	5,279	△737	現金及び現金同等物の期首残高	48,098	47,360	48,098
現金及び現金同等物の期首残高	48,098	47,360	48,098	現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	46,689	52,640	47,360
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	46,689	52,640	47,360				

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

Point

・キャッシュ・フローの状況

(営業活動によるキャッシュ・フロー)
営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益、その他の流動負債の減少など資金減少要因がありましたが、売上債権、たな卸資産の減少などが資金増加要因となり、前年同期に比べ50億9百万円増の79億4百万円となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)
投資活動の結果使用した資金は、有価証券の取得による支出の減少などにより、前年同期に比べ17億8千万円支出減の14億6千7百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)
財務活動の結果使用した資金は、前年同期に比べ1億4百万円支出増の11億6千万円の支出となりました。

主な医療用医薬品

泌尿器科用薬剤	
ユリーフ	排尿障害改善薬
腎・透析科用薬剤	
ピートルチュアブル錠	高リン血症治療薬
エポエチンアルファBS注JCR	腎性貧血治療薬
フラグミン静注	血液凝固阻止剤
フルスタン錠	活性型ビタミンD ₃ 製剤
代謝内分泌科用薬剤	
グルファスト	糖尿病治療薬
グルベス配合錠	糖尿病治療薬
ベザトールSR錠	高脂血症治療薬
産婦人科用薬剤	
ウテメリン	切迫流・早産治療薬
ゾラデックス1.8mgデポ	子宮内膜症治療薬
眼科用薬剤	
リザベン点眼液	アレルギー性結膜炎治療薬
リズモンTG点眼液	緑内障・高眼圧症治療薬
その他の薬剤	
サラジェン	口腔乾燥症状改善薬
リザベン	アレルギー性疾患治療薬
キサソボン注	脳循環改善薬
ガスコン	消化管内ガス駆除薬
ドメナン錠	気管支喘息治療薬
レクタブル注腸フォーム	潰瘍性大腸炎治療薬

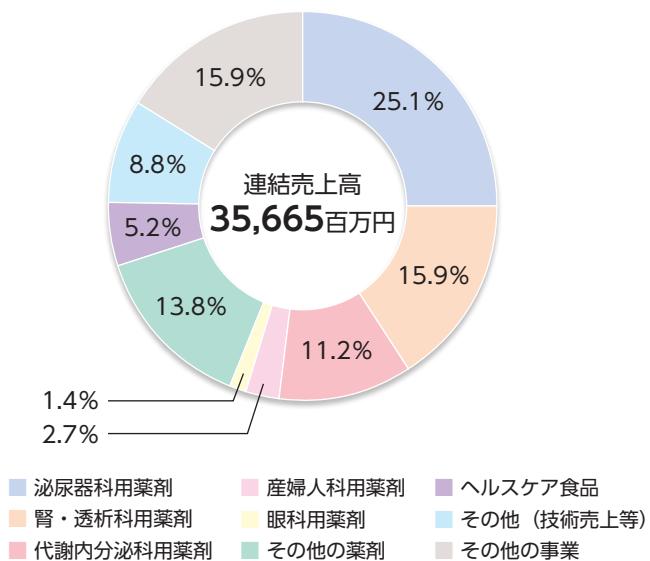
主なヘルスケア食品

介護・高齢者向け食品

新スルーキング i・・・お茶やジュース等の飲み物や食品の種類及び温度に関係なく、安定したとろみがつけられるとろみ調整食品です。無色でおいも味もなく、食品の風味を損ないません。

スルーパートナー・・・液状食品やミキサー食を見た目においしそうで食べやすいゼリー食にできる介護食調整用食品です。いろいろな食品を風味や色を変えることなく固めることができ、冷たいままでも温めてもおいしく召しあがれます。

やわらかカップ・・・テリーヌ風においしくとろけるようなやわらかさに仕上げました。調理済みのため加熱の必要はなく、開けてそのまま召しあがれます。いとより鯛、かに風味、ほたて風味、いわし、うなぎ蒲焼き風味、ポークしょうが焼き風味があり、たんぱく質7gのぶり大根風味、さばの味噌煮風味もあります。また栄養強化タイプとして、カレー風味、ビーフシチュー風味、エビチリ風味の3種があります。



過活動膀胱治療薬「ベオーバ®錠50mg」の製造販売承認取得



本年9月に、過活動膀胱治療薬「ベオーバ®錠50mg」について、共同開発先である杏林製薬株式会社が製造販売承認を取得しました。

本剤は、杏林製薬がアメリカのMerck社との間でライセンス契約を締結し、2016年に日本国内における共同開発権及び販売権を当社に供与して、両社で国内開発を進めてきました。

過活動膀胱は、加齢や神経疾患などの原因により「尿意切迫感(急に起こる、抑えられないような強い尿意)」や「頻尿(排尿回数が通常より多い状態)」、「夜間頻尿」などの症状を示す疾患です。本剤の有効成分であるビベグロンは膀胱のβ3アドレナリン受容体に選択的に作用し、膀胱を弛緩させることで、

蓄尿機能を高め、過活動膀胱における尿意切迫感、頻尿及び切迫性尿失禁の症状を改善します。

当社は泌尿器科を重点領域の一つに位置づけており、本剤の早期市場浸透を図ることにより、過活動膀胱の諸症状で苦しむ患者さんに新たな治療の選択肢を提供し、更なる貢献を目指します。

高リン血症治療薬「ピートル®顆粒分包」の製造販売承認取得

当社は、本年9月に高リン血症治療薬「ピートル®チュアブル錠」(一般名:スクロオキシ水酸化鉄)の新しい剤形となる「ピートル®顆粒分包」について、製造販売承認を取得しました。

本剤は、酸化水酸化鉄が消化管内でリン酸と結合し体内へのリンの吸収を抑制することにより、血清リン濃度を低下させます。当社は、ビフォー・フレゼニウス・メディカル・ケア・リーナル・ファーマ社(スイス)より日本におけるピートル®の独占的開発・販売権を取得し、透析中の慢性腎臓病患者さんにおける高リン血症治療薬として国内で臨床開発を行い、2015年11月にチュアブル錠として発売しました。チュアブル錠は水分制限がある透析患者さんに、水なしで服用可能というメリットをもたらす一方、近年増加し続けている高齢患者さんなどにおいては咀嚼機能の低下によりチュアブル錠を噛み砕くことが困難な方もおられます。そこで、嚙まずに服用できる新剤形として、直径2.3mmのマイクロタブレット型の顆粒剤を開発し、昨年9月に製造販売承認申請を行っていました。

当社は、腎・透析領域を重点領域の一つに位置づけており、ピートル®の製品ラインアップにマイクロタブレット型の顆粒剤を新たに加えることで、服薬アドヒアランス向上のための新しい選択肢として、透析医療に一層貢献できるものと期待しております。



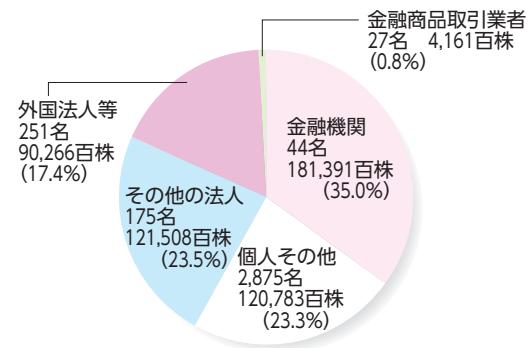
株式の状況 (2018年9月30日現在)

発行可能株式総数 227,000,000株
 発行済株式の総数 51,811,185株
 株主数 3,372名 (前期末比増減444名減)
 大株主

株主名	持株数	持株比率
第一生命保険株式会社	32,000百株	6.9%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	28,149	6.0
株式会社八十二銀行	23,333	5.0
株式会社みずほ銀行	18,334	3.9
有限会社カンザワ	16,782	3.6
神澤 陸 雄	15,406	3.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	13,671	2.9
キッセイグループ従業員持株会	12,710	2.7
鍋林株式会社	12,223	2.6
株式会社長野銀行	11,260	2.4

(注) 1. 当社は自己株式5,094,803株を保有しておりますが、上記大株主に記載しておりません。
 2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

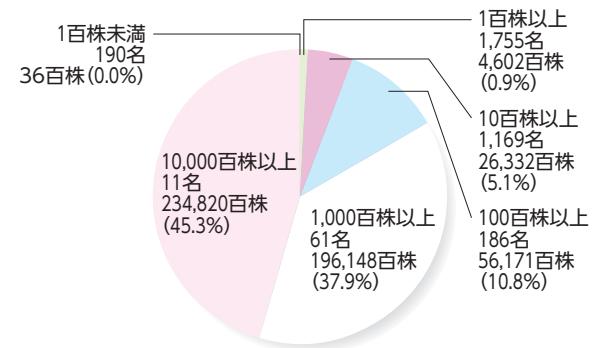
所有者別分布



株価チャート



所有株数別分布



会社の概要 (2018年9月30日現在)

社名 **キッセイ薬品工業株式会社**
 英文社名 KISSEI PHARMACEUTICAL CO., LTD.
 設立 1946年(昭和21年)8月9日
 資本金 24,356,653,478円
 主要な事業内容 医療用医薬品の研究・開発・製造・販売
 従業員数 1,530名

事業所 本 社
 長野県松本市芳野19番48号
 電話 (0263) 25-9081 〒399-8710
 東京本社
 東京都中央区日本橋室町一丁目8番9号
 電話 (03) 3279-2761 〒103-0022
 東京本社 (小石川)
 東京都文京区小石川三丁目1番3号
 支 店
 札幌支店、仙台支店、関越支店(さいたま市)、
 東京支店、横浜支店、松本支店、
 名古屋支店、京都支店、大阪支店、
 高松支店、広島支店、福岡支店
 (注) 支店の下に49営業所を設置しております。

工 場
 松本工場、塩尻工場
 研 究 所
 中央研究所・第二研究所・製剤研究所
 (長野県安曇野市)
 上越化学研究所
 (新潟県上越市)
 ヘルスケア事業センター
 (長野県塩尻市)

役員

代表取締役会長	神澤 陸雄	取締役	菊池 伸次
代表取締役社長	降旗 喜男	取締役	相良 純徳
取締役副社長	佐藤 公衛	取締役	北原 孝秀
常務取締役	福島 敬二	社外取締役	清水 重孝
常務取締役	竹花 泰雄	社外取締役	野村 稔
取締役相談役	両角 正樹	常勤監査役	米窪 真人
取締役	高山 哲	常勤監査役	伊佐治 正幸
取締役	草間 寛	社外監査役	上野 紘志
取締役	松下 英一	社外監査役	中川 寛道

Information



ホームページのご案内

当社のホームページでは、タイムリーな情報を提供しています。是非アクセスしてください。

アドレスはこちら↓
<https://www.kissei.co.jp/>

Annual Report 2018

ホームページ (English Page) にも掲載しています。



CSR報告書 2018

環境やCSRの取り組みを「CSR報告書」としてまとめています。

資料請求のご連絡先: 広報部 TEL: 0263-25-9523
 (土・日・祝日、当社休日を除く月~金 8:40~17:20)